



## アイロン一つで 新品と同様に仕上げる

### 職業としての古い歴史を持つ洗濯

室町時代には紺屋(染物屋)が公家の服の洗張りをおこなうなど、職業としての洗濯は古くからありました。しかし石鹼を使用した西洋式洗濯が日本でおこなわれたのは幕末にペリーが来航した時、艦隊から提供された石鹼で乗組員の服を洗ったのが最初だといわれています。

洗濯は単に衣類に付いた汚れを落とし、きれいにするだけではありません。洗うことによって衣服を長持ちさせることができ、身だしなみを整えることで気持ちを引き締めるためにも大切です。

クリーニングの発展は、洋服の普及と関係しているようです。ただ、明治の終わり頃まで洋服を着用する人は軍人や役人、実業家などで一般庶民の多くは和服を着用していました。その後、関東大震災やデパート火災などで逃げる際に動きにくいことから、男女を問わず洋服着用者が増え、それと共にクリーニング店も増加しました。第二次大戦後は、米軍からの機械の提供もあり、仕事の受注が増え、一般化が加速しました。

### 手作業でしかできない最高の仕上がり

石鹼を使い手洗から始まったクリーニング業ですが、洗濯機、ドライクリーニング、様々な洗剤や溶剤、アイロン、プレス機など次々と新しい機器が開

発、導入されていきます。その一方で衣服にも様々な素材が使われるようになると同時に、個性的なファッションの衣服が増え、家庭では簡単に洗いきにくい衣服も増えてきました。汚れやシミをきれいに落とすの

は当然です。また型くずれしたり、ボタンや装飾が変形しないような洗濯方法を見極める確かな目も必要になってきました。さらに大事なことがアイロンで新品の時と同じような状態にまで仕上げることです。

アイロン台以外に馬と呼ばれる仕上台がありますが、高級なオーダー背広などは20以上もの馬を使い、背中、袖、肩、裾などを仕上げていきます。もともとが平らな布を人の体に合わせてつくられた服です。洗うことで布が伸びたり縮んだりします。それを元通りの形に戻す作業はまさに熟練の技です。組合では、クリーニング技術や経営の教育にクリーニング学校を運営していましたが、クリーニング師免許取得者が減少し、現在、休校しています。なお、現在は様々なクリーニング機械が普及していますが、手仕上げ・手直しの注文も大きく残っています。



DATA 愛知県クリーニング生活衛生同業組合  
所在地: 千種区大久手町5-11

- ・昭和32年: 愛知県クリーニング環境衛生同業組合設立
- ・昭和42年: 愛知県クリーニング研究所開設
- ・昭和51年: クリーニング学校開校(現在、休校中)
- ・平成13年: 愛知県クリーニング生活衛生同業組合に名称変更
- ・平成29年: 組合創立60周年